

(案)

中央区 区ビジョンまちづくり計画

(平成 27 年度～平成 34 年度)

新潟市中央区役所

# — 目 次 —

目次	P1
計画の構成	P2~3
参考：中央区 区ビジョン基本方針（抜粋）	P4
各区のすがた	P5~6
<b>I 中央区の概要</b>	P7~11
<b>II 中央区区ビジョンまちづくり計画体系図</b>	P12
<b>III 中央区の現状、特性と課題 / まちづくりの方針</b>	P13~31
◇ 魅力的で活力あふれる拠点のまち	・ P13~16
◇ 安心してすこやかに暮らせるまち	・ P17~23
◇ 水と緑が調和したやすらぎのあるまち	・ P24~26
◇ 未来につなぐ歴史・文化のまち	・ P27~29
◇ 区政運営の基盤	・ P30~31

## はじめに

中央区区ビジョンまちづくり計画は、新潟市総合計画（にいがた未来ビジョン）の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取組みと、実施計画に相当する具体的な取組みを示した中央区のまちづくり計画です。

計画期間は、平成27年度から平成34年度までの8年間とします。

ただし、事業計画は、取組みの実施状況や社会・経済状況の変化などに対応するため、2年ごとに策定し進捗管理を行います。

## 《計画の構成》

### 【新潟市次期総合計画とは】

新潟市が目指すまちづくりのあり方を示すもので「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。区ビジョンまちづくり計画の上位計画です。

「基本構想」「基本計画」は平成27年度から8年後の平成34年度までを計画期間とし、新潟市の目指すまちづくりの方針と、その実現に向けた政策と施策について記載するものです。また、施策の実現に向けた具体的な取組みを掲載する「実施計画」は2年ごとに見直しを行います。

### 【区ビジョン基本方針とは】

政令市における区の将来像や目指す方向などを示すものです。新潟市次期総合計画の「基本計画」の一部として策定されます。中央区自治協議会で検討・審議をしていただき、議決を経て策定したところです。

### 【区ビジョンまちづくり計画とは】

「基本計画は、区ビジョン基本方針を踏まえ、より具体的な取組みの方向性を示すものです。

計画期間は、平成27年度から平成34年度までの8年間となります。

構成は、「Ⅰ 中央区の概要」「Ⅱ 中央区区ビジョンまちづくり計画体系図」「Ⅲ 中央区の現状、特性と課題／まちづくり方針」となっています。

「実施計画（別冊）」は、2年ごとに策定し、進捗管理を行っていきます。

**新潟市総合計画  
(にいがた未来ビジョン)**

**【基本構想】**

まちづくりの理念と  
目指す都市像

**【基本計画】**

基本的な政策や施策、  
土地利用の基本的な  
方向性

**区ビジョン基本方針**

**【実施計画】**

基本計画で示した施策  
を実現するための具体  
的な取組み  
(2年ごとに策定)

**中央区区ビジョンまちづくり計画**

**【基本計画】**

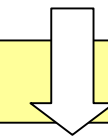
**I 中央区の概要**

- |      |        |      |
|------|--------|------|
| 1 地勢 | 2 歴史   | 3 自然 |
| 4 人口 | 5 土地利用 |      |
| 6 産業 | 7 交通   |      |

**II 中央区区ビジョンまちづくり計画  
体系図**

**III 中央区の現状、特性と課題  
／まちづくりの方針**

- ◇魅力的で活力あふれる拠点のまち
- ◇安心してすこやかに暮らせるまち
- ◇水と緑が調和したやすらぎのあるまち
- ◇未来につなぐ歴史・文化のまち
- ◇区政運営の基盤



**【実施計画】**

上記で示した施策を実現する  
ための具体的な取組み (別冊)

## 参考：中央区 区ビジョン基本方針（抜粋）

### 区の概要 （略）

### 区の将来像

歴史と文化の薫りただよう、うるおいと にぎわいのまち

### 目指す区のすがた

#### 《魅力的で活力あふれる拠点のまち》

- 様々な都市機能が集積した都心を有する区として、ヒト・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして訪れる人にとって魅力的で、にぎわいあふれるまちを目指します。
- 美しい景観形成に努めるとともに持続可能な公共交通体系の整備を進め、まちなかの活性化を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたくなる利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。

#### 《安心してすこやかに暮らせるまち》

- 下町（しもまち）をはじめ少子高齢化が進展する中、区民のつながりを大切にして地域コミュニティを充実させ、互いに支え助け合い、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを目指します。
- 多様な人々が行き交う生活環境において、子どもたちを安心して生み育てる環境の整備に努め、家庭・地域・学校が連携を深めることで子どもたちが健全に育まれるまちを目指します。
- 自然災害や都市型災害など、災害時に区民一人ひとりが適切な判断と行動をとれるような仕組みづくりやコミュニケーションづくりを進め、災害に強いまちを目指します。

#### 《水と緑が調和したやすらぎのあるまち》

- 都心部を流れる信濃川とともに、鳥屋野潟、日本海の豊かな水辺や緑を守り育むことで愛着と誇りを持ち、自然と共生できるやすらぎのあるまちを目指します。

#### 《未来につなぐ歴史・文化のまち》

- 開港5港の一つとして古くから栄えた風情あふれる湊町文化を受け継ぐとともに、食文化の交流や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより、様々な文化が融合した、未来につながるまちを目指します。
- 新潟まつりをはじめ、各地域に伝わる歴史・文化を若い世代に語り継ぐことで、住む人々が文化の継承やまちなみの保存に対する意識を高め、郷土を大切にする人づくりのまちを目指します。

# 各区のすがた

項目		新潟市全体	北区	東区	中央区	
人口	総数 (※1)	平成22年人口(人)	811,901	77,621	138,096	180,537
		平成47年推計人口(人)	701,875	63,954	113,153	165,059
	15歳未満	平成22年人口(人) 割合(%)	103,346 (12.8)	10,243 (13.2)	18,420 (13.4)	21,097 (11.9)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	67,380 ( 9.6)	6,517 (10.2)	11,882 (10.5)	16,294 ( 9.9)
	15～64歳	平成22年人口(人) 割合(%)	516,311 (64.0)	49,678 (64.2)	88,217 (64.2)	117,426 (66.0)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	391,575 (55.8)	35,743 (55.9)	63,877 (56.5)	98,903 (59.9)
	65歳以上	平成22年人口(人) 割合(%)	187,371 (23.2)	17,477 (22.6)	30,700 (22.4)	39,495 (22.2)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	242,920 (34.6)	21,693 (33.9)	37,394 (33.0)	49,862 (30.2)
		単身高齢者数(人)	23,054	1,616	4,179	7,610
		65歳以上人口に占める単身高齢者数の割合(%)	12.3	9.2	13.6	19.3
	人口動態	年間増減(人)	-1,452	-445	-175	407
		うち自然動態(人)	-2,073	-243	-222	-237
		うち社会動態(人)	621	-202	47	644
世帯	世帯数(世帯)	312,533	26,050	54,447	85,405	
	1世帯あたりの人員(人)	2.60	2.98	2.54	2.11	
	核家族の割合(%)	54.2	57.6	58.4	47.7	
	単独世帯の割合(%)	30.6	21.2	28.8	44.2	
	3世代世帯の割合(%)	10.8	16.2	8.7	4.5	
面積	面積(km <sup>2</sup> )	726.10	107.92	38.77	37.42	
農業	農家戸数(戸)	12,690	1,992	362	254	
	農業就業人口(人)	19,068	3,069	515	375	
	うち65歳以上の割合(%)	53.9	55.8	52.2	48.3	
	経営耕地面積(ha)	30,617	4,501	685	444	
工業	事業所数(所)	1,160	181	220	161	
	従業者数(人)	35,432	6,105	8,156	2,287	
	製造品出荷額等(億円)	10,050	2,528	2,911	374	
商業	事業所数(所)	7,853	557	1,167	2,647	
	従業者数(人)	61,628	3,929	10,194	20,775	
	年間商品販売額(億円)	31,664	1,202	5,292	12,824	

資料：人口：国勢調査(H22)，推計値(新潟市全体)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」，推計値(各区)はH22国勢調査を基準として新潟市推計，人口動態は新潟県人口移動調査(H25)

面積：国土交通省国土地理院(H25)

農・工・商業：世界農業センサス(H22) 経済センサス-活動調査(H24)

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目	
69,365	77,329	46,949	161,264	60,740	平成22年人口(人)	総数 (※1)
68,834	67,638	36,798	141,792	44,920	平成47年推計人口(人)	
9,584 (13.8)	10,156 (13.2)	5,981 (12.8)	20,430 (12.7)	7,435 (12.3)	平成22年人口(人) 割合(%)	15歳未満
7,677 (11.2)	6,640 ( 9.8)	3,482 ( 9.5)	13,103 ( 9.2)	4,163 ( 9.3)	平成47年推計人口(人) 割合(%)	
43,561 (62.9)	47,069 (61.0)	29,639 (63.3)	103,383 (64.5)	37,338 (61.6)	平成22年人口(人) 割合(%)	15~64歳
39,887 (57.9)	38,493 (56.9)	19,101 (51.9)	80,590 (56.8)	22,563 (50.2)	平成47年推計人口(人) 割合(%)	
16,077 (23.2)	19,953 (25.9)	11,228 (24.0)	36,561 (22.8)	15,880 (26.2)	平成22年人口(人) 割合(%)	65歳以上
21,270 (30.9)	22,505 (33.3)	14,215 (38.6)	48,099 (33.9)	18,194 (40.5)	平成47年推計人口(人) 割合(%)	
1,423	1,935	762	4,325	1,204	単身高齢者数(人)	
8.9	9.7	6.8	11.8	7.6	65歳以上人口に占める単身高齢者数の割合(%)	人口動態
-231	-228	-390	199	-589	年間増減(人)	
-141	-313	-167	-359	-391	うち自然動態(人)	
-90	85	-223	558	-198	うち社会動態(人)	世帯
22,963	26,141	14,113	65,255	18,159	世帯数(世帯)	
3.02	2.96	3.33	2.47	3.34	1世帯あたりの人員(人)	
60.7	58.3	53.9	54.2	52.7	核家族の割合(%)	
18.8	19.7	16.2	33.7	15.8	単独世帯の割合(%)	
15.0	16.6	24.1	8.2	25.1	3世代世帯の割合(%)	
75.46	95.38	100.83	93.81	176.51	面積(km <sup>2</sup> )	面積
1,750	1,667	2,272	1,446	2,947	農家戸数(戸)	農業
2,506	2,162	3,627	2,491	4,323	農業就業人口(人)	
57.1	61.6	52.1	45.4	54.0	うち65歳以上の割合(%)	
3,424	3,556	5,918	4,081	8,008	経営耕地面積(ha)	
124	95	131	87	161	事業所数(所)	工業
5,111	2,648	5,354	1,497	4,274	従業者数(人)	
1,184	664	1,427	279	683	製造品出荷額等(億円)	
722	632	465	1,088	575	事業所数(所)	商業
6,297	4,084	3,305	9,829	3,215	従業者数(人)	
2,401	884	2,854	5,315	891	年間商品販売額(億円)	

(※1) 平成22年人口総数には年齢不詳者も含まれているため、年代別人口と一致しない。  
総数に占める割合は年齢不詳者を除いて算出している。  
平成47年推計人口の新潟市全体は国立社会保障・人口問題研究所資料、  
区別人口は新潟市推計によるため合計値は一致しない。

# I 中央区の概要

## 1 地勢

○中央区は、本市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け中央に信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、更に海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。

○区の面積は新潟市の全面積（726.10 k m<sup>2</sup>）の約5%を占めており、37.42k m<sup>2</sup>で、8区の中で一番小さくなっています。

○地勢は概ね平坦ですが、鳥屋野潟周辺をはじめ、海拔ゼロメートル以下の地域もあり、また、海岸部に連なる砂丘がわずかに高台をなしています。

○区内は土地の高度利用が進み、様々な都市機能が集積する一方で、国の重要文化財に指定された萬代橋や、湊町の歴史的建造物など、伝統的文化を感じることもできるまちなみも存在しています。



## 2 歴史

○1622～44（寛永年間）年

海岸砂丘部及び亀田郷の内陸砂丘部と自然堤防に次々と村ができ、現在の村の原型が出そろいました。

○1655（明暦元）年

新潟町が白山・寄居島へ移転し、現在の町割りの原型となり、この時期に西回り航路が整備されました。

○1684（貞享元）年

沼垂町が阿賀野川・信濃川の川欠けにより、4度の移転を経て現在地に落ち着きました。

○1688～1704（元禄年間）年頃

日本海側最大の港町となりました。

○1746（延享3）年

信濃川右岸の大きな中洲・附寄島の開発が、安倍玄的ら5人により開始され、1750（寛延3）年に完了し、流作場新田と呼ばれました。



- 1768（明和5）年  
新潟町で長岡藩の御用金賦課をきっかけに町民が蜂起し、2ヵ月にわたり町民による自治が行われました。
- 1843（天保14）年  
新潟町は幕府領となり、初代新潟奉行として赴任した川村修就は、砂防林の造成、物価の安定、海岸防備、風俗の改善などさまざまな施策を行いました。
- 1858（安政5）年  
新潟町は修好通商条約で開港五港の一つとなり、1868（明治元）年に開港しました。
- 1870（明治3）年  
県庁所在地となり、開化政策が積極的に進められ、1877（明治10）年までに新潟郵便役所、国立銀行などが置かれました。
- 1879（明治12）年  
新潟町に寄居白山外新田が編入され区政が施行されました。
- 1889（明治22）年  
関屋村古新田と合併し、全国で最初に誕生した39市の一つとして市制が施行されました。
- 1914（大正3）年  
新潟市と沼垂町は近代埠頭の築造を期して合併しました。
- 1929（昭和4）年  
萬代橋は現在の3代目に架け替えられました。
- 1943（昭和18）年  
石山村・鳥屋野村と新潟市は合併しました。
- 1955（昭和30）年  
新潟大火では市役所をはじめ、中心市街地の多くの建物が焼失しました。
- 1964（昭和39）年  
新潟国体が開催されました。国体に向けた整備のため、市街地の堀がすべて埋め立てられました。また、同年マグニチュード7.5の新潟地震が発生し、被害は新潟市中心部に集中しました。
- 1972（昭和47）年  
関屋分水路が通水しました。
- 1978（昭和53）年  
北陸自動車道・新潟一長岡間が開通し、1997（平成9）年までに関越自動車道・北陸自動車道・磐越自動車道が全線開通しました。
- 1982（昭和57）年  
上越新幹線・新潟一大宮間が開通しました。
- 1991（平成3）年  
上越新幹線が東京駅に乗り入れ、新潟一東京間が日帰り圏内となり、新潟市は日本海側の高速交通拠点となりました。
- 1996（平成8）年  
拠点性を高めた新潟市は、中核市に指定されました。

- 2001（平成 13）年1月  
平成の大合併で、黒埼町と合併しました。
- 2002（平成 14）年  
日本・韓国で開催されたワールドカップサッカー大会では、新潟スタジアム（ビッグスワン）が試合会場となりました。
- 2005（平成 17）年3月  
新津市、白根市、豊栄市、小須戸町、横越町、亀田町、岩室村、西川町、味方村、潟東村、月潟村及び中之口村の 12 市町村と合併しました。
- 2005（平成 17）年 10 月  
巻町と合併しました。
- 2007（平成 19）年4月  
新潟市は本州日本海側初の政令指定都市となり、「中央区」が誕生しました。
- 2008（平成 20）年5月  
主要国首脳会議（G8 サミット）の労働大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。
- 2009（平成 21）年9月～10月  
第 64 回国民体育大会（トキめき新潟国体）・第9回全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）が開催されました。
- 2010（平成 22）年 10 月  
APEC（アジア太平洋経済協力）食料安全保障担当大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。
- 2014（平成 26）年8月  
新潟市・沼垂町合併 100 周年記念事業を開催しました。

### 3 自然

- 本市の中心部に位置する新潟西海岸は、日本海に面し、飛砂と強風からまちを守るための防風林として江戸時代末期よりクロマツが植林され、現在では多様な動植物を有する市民の貴重な自然資源となっています。
- 中央区を流れる信濃川の両岸には、全国初の緩やかな堤防（やすらぎ堤）が整備され、緑地や遊歩道、サイクリングコースなど、河川と一体となった親水空間として、人々が集い、憩えるやすらぎの場となっています。
- 鳥屋野潟は、都市に隣接し、貴重な自然環境を生かした市民の憩いの場として、また、市民の生活を守る遊水地として、治水上も大きな役割を果たしています。また、ガンカモ類の集団飛来地であるとともに、湖岸にはヨシが優占する広大な湿性草地が形成され、多様な動植物の生育・生息環境となっています。

## 4 人口

### ○人口

175,909人（8区の中で最大）

### ○世帯数

83,653世帯（8区の中で最大）

### ○1世帯当たりの人口

2.10人（8区の中で最少）

### ○中央区年齢階層別人口、将来推計人口（階層別）

老年人口（65歳以上）の割合 22.2%（市全体の割合 23.6%）

（出典）H22年国勢調査

ただし、区内の一部には、市全体の中で非常に高い割合を示している地域があります。

将来推計人口によると、今後はさらに人口が減少し、より一層高齢化が進むことが推測されます。

## 5 土地利用

○都心をもつ区として、さまざまな都市機能が集積し、土地の高度利用が図られています。

○面積 37.42 km<sup>2</sup>（8区の中で最小）

### ○用途別土地利用面積の割合

宅地が占める割合が最も高い（8区の中で東区に次いで2番目の高さ）

### ○人口密度

職住近接の利便性の高い居住地として、人口が集中している。

（8区の中で最も高い）

## 6 産業

○中央区は、本市の経済をけん引する中枢の役割を担っており、商業の事業所数や年間商品販売額は8区の中で最も多く、特に飲食料品、建築材料などの卸売業や衣料品、飲食料品などの小売業の割合が高くなっています。

○工業の事業所数は、東区、北区に次いで多く、食料品製造業、印刷・同関連業の割合が高くなっています。

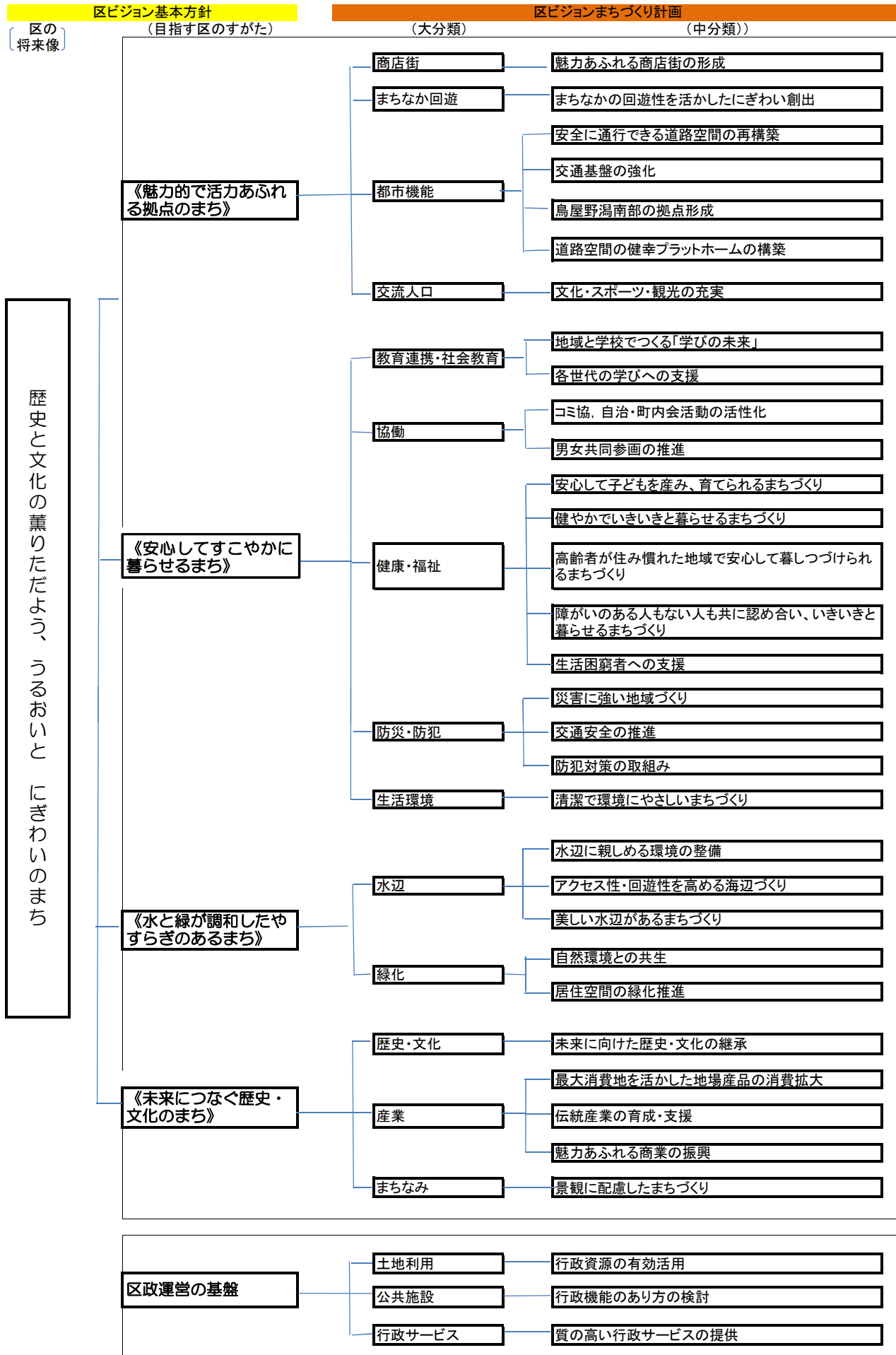
○農業では、女池菜が中央区の名産品となっています。また、中央区は市内最大の消費地であることから、市内産農産物の認知度を高めるとともに地産地消に努めています。

○北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取り組みが進められています。

## 交通

- 高速道では、北陸道、磐越道、日本海東北道の 3 路線の結節点を擁し、一般道では国道 7 号、同 8 号、同 116 号などのほか、県道や市道が中心市街地に向けて整備されています。
- 鉄道は、3 駅が設置されており、新潟駅には、上越新幹線のほか、在来線では信越本線、白新線、越後線が集まっています。
- バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されています。
- 海路では佐渡航路があり、信濃川においても水上シャトルバスが運行されています。

## Ⅱ 中央区 区ビジョンまちづくり計画体系図



※「区政運営の基盤」は、中央区区ビジョン基本方針における「目指す区のすがた」と別に、中央区区ビジョンまちづくり計画に位置づけているものです。

## Ⅲ 中央区の現状、特性と課題／まちづくりの方針

### 【魅力的で活力あふれる拠点のまち】

#### 1 商店街

##### 《現状、特性と課題》

○中央区は、本市の経済をけん引する役割を担っています。その中核となる区内の商店街において歩行者通行量が減少するとともに、空き店舗が多く見られるため、地域の魅力を活かした空き店舗活用やにぎわいを創出する集客イベントの取組みを支援するなど、商店街の活性化を推進していく必要があります。

##### 《まちづくりの方針》

###### <魅力あふれる商店街の形成>

- きめ細やかなサービスの提供、オンリーワン商品の開発・販売、新たな魅力ある店舗の誘致、歴史・文化を活用した取組み、イベントなど商店街の活性化に向けた取組みを支援することにより、商店街の魅力を高め、愛着と誇りを持てる商店街の形成に努めます。

#### 2 まちなか回遊

##### 《現状、特性と課題》

○中央区の中心市街地には、江戸時代の町割りに始まる街区や湊町の風情を残す建造物などが多く残っている地区、大規模な商業施設が集積し、公共交通

ターミナルの機能を持つ地区、また新潟駅連続立体交差事業に伴う周辺整備が進む地区などがあり多くの人が行き来しています。引き続き、利便性、回遊性の向上に努め、交流人口の増加を図る取組みが必要になります。

○本市は政令指定都市として国際的にも開かれた都市ですが、中心市街地における公共施設や文化施設を外国語で案内する機能が不足しているため、外国人来訪者の利便性の向上や中央区の魅力のアピールを目的とした取組みが必要です。

## 《まちづくりの方針》

<まちなかの回遊性を活かしたにぎわい創出>

- 公共交通の再構築によりまちなかの移動や交流を容易にすることで、回遊性を向上させ、にぎわいや活力の創出に努めます。
- 商店街の新たなイメージづくりに向けた環境整備を支援し、多くの人が行ってみたくなる、歩いてみたくなるまち（商店街）を目指します。
- 萬代橋周辺の道路や河川などの公共空間を活用し、まちなかで楽しめる空間をつくるとともに、信濃川の自然や水辺を活かした景観づくりや環境整備など、官民連携による地域のにぎわい創出と活性化に向けた施策を展開し、萬代橋周辺ならではの魅力的なまちなか空間の形成を目指します。
- 「古町」「西大畑」の両地区は、湊町新潟の人の交流を象徴する固有の歴史・文化資産が残っておりその魅力や価値を高めながら後世に継承できるよう保全に取り組むとともに、楽しみながら回遊できる都市空間を創出します。
- 外国人来訪者の利便性の向上や中央区の魅力のアピールのために、外国語表記を含む案内サインの充実に取り組みます。
- 中央区において定着している「まち歩き」を関係団体と連携するなどさらに進化させ、地域の魅力の発掘及び区内外への発信に努めます。

## 3 都市機能

### 《現状、特性と課題》

○まちなかでは、歩行者と自転車のいずれの通行量も多く歩行者の安全を第一として、歩行者と自転車が安心安全に通行できる道路空間の再構築が必要です。

○まちなかの歩道では、路上駐輪が多く歩行者通行の支障になっているため、駐輪場の確保が課題となっています。

○美しいまちなみを形成し、都市景観の向上を図るとともに、歩行空間のバリ

アフリー化が必要です。

- 新潟駅周辺地区においては、市街地が鉄道によって分断され、鉄道を横断する交通の混雑や踏切の危険性などの問題があります。「日本海拠点都市」を目指す本市の都市機能強化に向け、駅と鉄道の高架化など新潟駅周辺整備の着実な推進が重要となっています。
- BRT開業とあわせて、バス路線の再編を一体的に行う新バスシステムの構築などにより、中央区の各地域において、誰もが移動しやすい交通環境にすることが必要です。
- 豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接し、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約 270 ヘクタールにおいて、環日本海地域の拠点に相応しい環境の優れたアメニティ空間の創出や新しい都市機能の導入が必要です。
- 健康づくりやレジャーに最適な歩行者向き、自転車向きの専用コースが整備されつつあるものの、利用者からコースが分かりづらく歩行者と自転車が錯綜し危険などの指摘があることから、これを解決するとともに、健幸都市の実現に向けて、更なる価値を増していくことが必要です。

## 《まちづくりの方針》

### <安全に通行できる道路空間の再構築>

- まちなかにおいて、歩行者と自転車が安心安全に通行できる道路空間を整備するとともに、駐輪場の確保に努めます。
- バリアフリー化を推進し安全な歩行空間を確保するとともに、都市景観及び都市防災機能の向上に努めます。

### <交通基盤の強化>

- 「日本海拠点都市にいがた」における陸の玄関口としてふさわしい都市機能の強化に向け、新潟駅の高架化など駅周辺地区の整備を進めるとともに主要道路の整備を推進し道路ネットワークの強化を図ります。
- 区民が自動車へ過度な依存をせず、わかりやすく移動できるような交通環境の実現を目指し、バス路線再編などにより持続可能な公共交通ネットワークを構築する取組みを進めます。また、再編後のバス路線とJR、及びタクシーなど他の交通機関との連携について検討します。

### <鳥屋野潟南部の拠点形成>

- 鳥屋野潟南部を土地利用計画毎にゾーニングし、県立鳥屋野潟スポーツ公園などの整備により、新たな拠点を形成します。



#### <道路空間の健幸プラットフォームの構築>

- ぐるりん新潟島（新潟島一周自転車道）の利便性向上を図るとともに、区民をはじめ、市外・県外からの方々が気持ち良く街に出かけ、新潟を堪能して気軽に健康づくりができる環境整備に努めます。

## 4 交流人口

### 《現状、特性と課題》

- 本市は大規模な国際会議や学会、展示会などが開催される都市であり、その多くが開催される中央区には国内外から多くの参加者が訪れ、滞在します。外国人を含めた来訪者が心地よく催しに参加でき、滞在を楽しめる環境整備と、おもてなしの雰囲気づくりが必要です。
- 中央区には、りゅーとぴあ、ビッグスワン、アイスアリーナ、マリンピア日本海等、県や市を代表する文化・スポーツ・観光施設があり、市内外から多くの人々が集い、にぎわっています。今後、イベント内容の充実、施設間の連携、市内外へのPRにより、さらなる交流人口の拡大を図る必要があります。
- 西港区周辺部の交流拠点化を推進し、「湊町新潟」にふさわしいにぎわいを創出するため、万代島旧水揚場跡地において市民に開かれた利活用が求められています。

### 《まちづくりの方針》

#### <文化・スポーツ、観光の充実>

- 江戸時代から続く町割りや花柳界、歴史的な建造物など中央区の魅力を市内外の観光客にまち歩きを通して伝えるとともに、信濃川をめぐる観光水上バス「信濃川ウォーターシャトル」を活用した観光客の誘致を図り交流人口の増加を目指します。
- 中央区の文化・スポーツ資源や特色ある観光資源を活用しながら、大規模な文化・スポーツイベント等を誘致することのできるまちを目指します。万代島旧水揚場跡地について、市民提言や周辺施設との連携を考慮しつつ、県や経済界など関係団体と意見交換しながら今後の活用を図っていきます。
- 古町地区の「マンガの家」、万代地区の「マンガ・アニメ情報館」を中心に「マンガ・アニメ」が身近にあるまちを目指して、「にいがたアニメ・マンガフェスティバル」などのイベントと連携して関連事業の内容を一層拡充し、市内外からの誘客を図ります。

# 【安心してすこやかに暮らせるまち】

## 1 教育連携・社会教育

### 《現状、特性と課題》

- 中央区では、市立の小学校、中学校、中等教育学校すべてに地域教育コーディネーターが配置され、多くのボランティアの協力を得ながら子どもの学力及び社会性の向上が図られています。今後、学校、家庭、地域が一層連携を強くし、未来を担う子どもたちを健やかにはぐくむ体制づくりを地域全体で進めていく必要があります。
- 中央区にある公民館や図書館は、地域住民をはじめ多くの人に利用されているため、利用状況に応じた学習活動への支援が必要です。

### 《まちづくりの方針》

#### < 地域と学校でつくる「学びの未来」>

- 学校（学）、公民館や図書館等（社）、そして地域住民、家庭（民）がそれぞれの立場での役割を果たすとともに、学・社・民が融合することで、より大きな力を発揮し、地域全体で教育に取り組む気運を高めていきます。
- 地域教育コーディネーターを対象とした研修会の開催や、学校と地域住民との情報交換会などの機会を通じて、より一層、学校・地域連携事業の推進に努めていきます。
- 学校と地域との良好な関係づくりのため、地域と学校パートナーシップ事業などへ地域住民の参画を促進し、学校教育活動を支援する仕組みづくりに努めていきます。

#### <各世代の学びへの支援>

- 各世代や地域内外の課題を踏まえた多様な学習機会を提供し、その学習成果を地域社会に活かすことができるよう支援していきます。

## 2 協働

### 《現状、特性と課題》

- ライフスタイルの変化や価値観の多様化などにより、地域の連帯感が希薄化している一方で、防災や福祉など公的サービスの多様化により、地域団体の活動が重要性を増しているため、地域コミュニティの活性化が課題となっています。
- 地域の高齢化により、地域コミュニティ活動の担い手も高齢化しており、それにとまなう担い手不足や、地域で活躍する人材の育成が課題となっています。特に、新たな担い手となりうる幅広い世代の住民を地域コミュニティ活動への参加につなげていくことが課題となっています。
- 中央区 22 の地域コミュニティ協議会のうち、コミュニティ活動の拠点となる十分な施設が確保できていない地域があり、地域コミュニティ活性化のための拠点の整備が課題となっています。
- 中央区では、男女共同参画地域推進員などと連携して、一人ひとりの人権を尊重し、安心して暮らせる男女平等な社会実現に向けた取組みを行っています。男女が対等なパートナーとして、自分の個性や才能を発揮しながら日常生活を送れるよう意識啓発を図っていく必要があります。

### 《まちづくりの方針》

#### <コミ協、自治・町内会活動の活性化>

- 若い世代を対象として、地域防災や福祉活動への参画を促し、地域の担い手としての意識を醸成するとともに社会性の向上を図っていきます。
- 地域コミュニティ協議会、自治会・町内会等との協働を推進し、情報提供や、各種助成を通じて、その活動を支援します。
- 各種団体の情報交換の促進や、研修等の実施により、地域コミュニティ協議会の人材育成を推進します。
- 地域活動の拠点については、施設の借上げや整備などの助成を行うとともに、公共施設の活用を含めて検討するなど、地域活動の拡大・充実に伴い必要となる拠点機能の確保を図っていきます。

#### <男女共同参画の推進>

- 区民一人ひとりが、人権を尊重し、性別にとらわれず、対等なパートナーとして日常生活を送ることができるよう、男女共同参画地域推進員などと連携し、区民の意識啓発に向けた取組みを行います。

### 3 健康・福祉

#### 《現状、特性と課題》

- 中央区は、子育て世帯に占める核家族の割合が高く、子育てに不安を抱える人もいます。また女性の社会進出やひとり親家庭の増加など、子育て家庭が抱える不安や負担は多様化してきています。このため身近な地域において子どもの健やかな成長を支える仕組みづくりや、ネットワーク（家庭・企業・地域・行政）の構築が必要です。
- がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病関連疾患の死因に占める割合は依然高くなっています。健康でいきいきとした生活を送るためには、特定健康診査、がん検診の受診率向上の取組みをはじめ、食生活改善推進委員や運動普及推進委員などのボランティアや地域コミュニティ協議会などと連携し、健康づくりに取り組むことが必要です。
- 中央区の高齢化率は、市平均より低いものの、小学校区単位では、市内で一番高齢化率の高い地域があります。住民はもとより、地域内の商店や事業所など地域社会全体で医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域づくりを進めていく必要があります。
- 障がい者の就労支援事業所や地域活動支援センターなど中央区の通所施設は、公共交通の利便性が高いこともあり、他区の障がい者も利用しています。また、他区と比較して障がい者用グループホームが少ないという現状もあり、障がい者が住みなれた地域で住み続けることができるよう、施設の開設を関係機関に働きかけるとともに地域の理解を進めていくことが必要です。
- 生活困窮世帯の方々がより安定した生活を送ることができるように、中央区に開設した職業相談コーナーを活用し、市が提供する福祉サービスと一体となって就労支援を図っていく必要があります。
- 生活困窮世帯においては、学習機会の不足からその子どもまで貧困に陥るケースがあります。そのような事態を防ぐため、現在行っている学習支援事業を継続実施し、学習習慣の定着や学力の向上を図る必要があります。

#### 《まちづくりの方針》

##### <安心して子どもを産み、育てられるまちづくり>

- 子育てについての学習機会の提供や親同士の仲間づくりを支援するなど、子育て中の親等の不安や負担の軽減を図っていきます。
- 安心して子どもを産み・育てることができるように、身近な地域で見守り、子育てする取組みを支援し子育てしやすい環境づくりに努めます。
- 生まれる前から、子育てに対する不安を軽減し、安心して子どもを産み・育てることができる意識を高めるとともに、男女ともに取得しやすい育児休業制度や男性の育児参加などを積極的に推進するための啓発に努めます。

- 子育ての先輩である祖父母の育児参加を促進することにより、家族の支え合い・助け合いによる子育て支援の向上に取り組みます。
- 児童虐待防止に向けて、中央区内の関係機関や施設等とのネットワークの確立に努めます。
- 中央区子育て応援マスコット「たっちゃん」を有効に活用しながら、中央区内の施設やイベント情報を発信し、子どもとともに子育て中の親も楽しく、のびのびと子育てできる環境づくりに努めます。

#### <健やかでいきいきと暮らせるまちづくり>

- がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の罹患（りかん）率を下げ、死亡率を減少させるために、市民の禁煙や適正飲酒、適度な運動、食生活改善などの取組みを支援します。また、定期健診を進め、早期発見、早期治療につなげるように努めます。
- 健康でいきいきとした生活を送るために、介護予防や健康教育などに取り組みます。また、運動習慣のない高齢者の介護予防や生活習慣病予防に対する地域主体の活動を支援し、区民の健康づくりに努めます。

#### <高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らつづけられるまちづくり>

- 見守りが必要な高齢者への情報提供、買い物、通院、ごみ出し等の生活支援、地域住民による取組みの支援に努めます。
- 高齢者の社会的孤立を防ぎ、地域で安心して生活できるまちづくりを進めるための支援策についてコミュニティ協議会や社会福祉協議会、地域の商店などと協働し、高齢者を地域で支えるシステムの構築に努めます。

#### <障がいのある人もない人も共に認め合い、いきいきと暮らせるまちづくり>

- 障がいのある人もない人も一人ひとりが大切にされるまちづくりを進めます。
- 特別支援学校との連携を密にして、卒業後の施設利用希望者を早くから把握し、スムーズな施設利用ができるよう努めます。
- 障がい者グループホームの整備など、住みなれた地域での生活の拠点づくりを進めます。

#### <生活困窮者への支援>

- 中央区に設置されている職業相談コーナーの活用の呼び掛けや、ハローワーク新潟と福祉事務所がより一層連携を密にして、生活困窮者の就労意欲や要望を把握することで、早期就労に向けた支援を行っていきます。
- 親から子へ貧困の連鎖を生まないように学習支援事業の対象者拡大や、学習会場の複数化を図るとともに教育支援員による家庭訪問、及び進学指導を実施していきます。

## 4 防災・防犯

### 《現状、特性と課題》

- 災害が発生した場合には、自主防災組織による地域防災力が重要になるため、自主防災組織の強化や区民一人ひとりが適切な行動をとれるような仕組みづくりが必要です。
- 中央区は人口集積に対応した大規模災害への備えが求められるとともに、災害時の被害を軽減させるために自主防災組織の活動の効率化や省力化を図る必要があります。
- 集中豪雨の増加や都市化の進展に伴い、短時間に大量の雨水が流出するため、浸水被害の発生リスクが高まっています。
- 計画降雨を超える近年の豪雨において、施設整備だけで浸水被害を防止するには限界があります。
- 地震や台風などによる電柱倒壊、道路閉塞を排除し災害時における緊急車両などの円滑な通行を確保するとともに、災害時に安全な歩行空間の確保が必要です。
- 超高齢社会における災害時要援護者対策として、地域で顔の見える関係づくりを進めることが重要です。
- 中央区は、様々な都市機能が集中し、交通量や人口が多いため、交通事故発生件数が、新潟市全体の約 3 割を占めています。また、近年は、道路交通法改正など、交通環境を取り巻く状況も変化しており、交通安全に対する啓発と区民意識の一層の向上が求められます。
- 犯罪の発生件数は、年々減少していますが、高齢者を狙った振り込め詐欺や特殊詐欺が手口を変えて発生しているほか、繁華街では違法な客引きも依然として見られるため、引き続き、防犯活動や意識啓発を進めていく必要があります。
- 子どもの犯罪被害の防止や、不審者対策として、子ども自らの判断による危険回避や、地域による見守り活動などの対策を実施する必要があります。

## 《まちづくりの方針》

### <災害に強い地域づくり>

- 地域が自主的に防災力の強化を進められるよう、自主防災組織のリーダー等の育成を図るとともに、自主防災組織による訓練の実施や防災保管庫、資機材の整備を進めていきます。
- 地域防災力の強化を図るため消防団員の確保や消防団の環境整備を進めるとともに、自主防災訓練指導や消防団員による高齢者家庭防火指導を実施します。また、防火広報の強化、リトルファイヤースクールの実施など小中学生を対象にした防火教育や女性消防団員による幼児防火教育を推進します。
- 本市が進めるポンプ場や雨水管などの施設整備に併せ、防水板設置等工事への助成などを行い、総合的な浸水対策に努めます。
- 都市景観及び都市防災機能の向上に寄与するとともに、安全な歩行空間の確保に努めます。（再掲）
- 高齢化が進むなか、災害時要援護者が増加しているため、要援護者と支援者の顔の見える関係づくりを進めることで、災害時要援護者対策を図っていきます。

### <交通安全の推進>

- 地域における事故を未然に防ぐため、地域と警察及び交通安全関係団体と連携しながら、交通安全に関する区民への啓発など知識の普及を進め、交通安全に関する区民意識の一層の向上を図ります。

### <防犯対策の取組み>

- 高齢者を狙った振り込め詐欺や特殊詐欺などの予防に関する啓発活動を一層充実させるなど、防犯意識の向上に努めます。
- 地域住民や警察、行政機関が協働して防犯に対する区民意識の向上を図り犯罪の減少を目指すとともに、防犯ボランティア団体によるパトロールなど地域住民により自主的に行われている防犯活動と連携し、子どもが被害にあう犯罪の防止や路上での違法な客引きなどの対策を進めます。

## 5 生活環境

### 《現状、特性と課題》

- 自然環境にやさしい資源循環型社会の実現に向け、3R（ごみの発生抑制、再使用、再生利用）の考え方にに基づき、ごみの減量化を積極的に推進するこ

とが必要です。

○たばこの吸い殻や空き缶等のぼい捨て、路上喫煙制限地区内での路上喫煙は市の条例で禁止されています。ごみの持ち帰りや喫煙マナーの啓発をどのように進めていくかが課題となっています。

## 《まちづくりの方針》

<清潔で環境にやさしいまちづくり>

- ごみ出しやごみのぼい捨て禁止などのルールやマナー、資源循環型社会の実現に向けたごみと資源の分別の徹底など、区民の美化・環境意識の向上のための啓発活動に努めます。



# 【水と緑が調和したやすらぎのあるまち】

## 1 水辺

### 《現状、特性と課題》

- 中央区は都心部を流れる信濃川、鳥屋野潟や日本海などの豊かな水辺に恵まれています。これらの水辺環境を活かしたにぎわいの創出や魅力を高める取組みを行い、次世代に引き継いでいくことが必要です。
- 中央区は、「湊町新潟」の発展を支えてきた日本海と様々な都市機能が集積するまちなかが近接・共存する地域であり、海辺とまちとのさらなる一体感を醸成するため、こうした特徴を活かした取組みを進めることが必要です。
- 日本海に面した美しい海岸が連なっている中央区において海水浴場は、関屋浜と日和山浜に設置されており、市内外から多くの遊泳者が訪れています。今後も遊泳者の安全確保に加え、魅力のある水辺環境の整備が必要です。
- 護国神社周辺は、日本の白砂青松100選に指定された景勝地であり、海岸、砂浜など美しい水辺の環境を守っていくことが必要です。
- 鳥屋野潟湖畔等へのごみの不法投棄など、まちの美観を損ねている事例があることから、マナーやルール遵守の啓発や環境美化活動などの取組みが必要です。

### 《まちづくりの方針》

#### <水辺に親しめる環境の整備>

- 萬代橋周辺の道路や河川などの公共空間を活用し、まちなかで楽しめる空間をつくるとともに、信濃川の自然や水辺を活かした景観づくりや環境整備など、官民連携による地域のにぎわい創出と活性化に向けた施策を展開し、萬代橋周辺ならではの魅力的なまちなか空間の形成を目指します。(再掲)
- 身近に水を感じ、気軽に水に親しめるよう、情報発信や機会づくりに努め、水辺の利活用を推進するとともに、大切な水辺環境を次世代に引き継いでいくなど、新たな魅力づくりとにぎわいの創出を図ります。
- 関屋浜と日和山浜の2つの海水浴場について、遊泳者の安全確保や魅力ある水辺空間としての環境整備に努め、安心・安全な海水浴場としてPRすることで遊泳者の増加を図ります。
- 鳥屋野潟や海岸の清掃活動を実施するほか、自治会・町内会やさまざまな団体が行う、地域における清掃活動を積極的に支援します。

### <アクセシ性・回遊性を高める海辺づくり>

- 「湊町新潟」の発展を支えてきた海岸と古町地区とのアクセシ性を高めることにより、ヒト・モノの交流が盛んになるよう取り組みます。
- まちなかから新潟西海岸エリアに点在する文化施設や史跡、海水浴場に誘導するサインの充実に取り組みます。

### <美しい水辺があるまちづくり>

- 鳥屋野潟や海岸の清掃活動を実施するほか、自治会・町内会やさまざまな団体が行う、地域における清掃活動を積極的に支援します。(再掲)

## 2 緑化

### 《現状、特性と課題》

- 汐見台周辺の海岸林は林帯幅が狭く落葉樹が中心であり、季節風の影響が最も大きい冬季の防風・防砂効果に対する十分な機能を満たすことができないため、効果を高める整備など、住環境の改善が課題となっています。
- 本市の中心部を流れ、海に注ぐ信濃川において、国で実施する河川改修事業に合わせて川辺の散策等を可能とする緑地整備を、一体的に実施してきました。今後は、安心・安全の新たな機能を付加した安らぎとゆとりを与えてくれる水辺空間の整備が必要となります。
- 「日本の都市公園100選」にも選ばれた日本で最初の公園の一つである白山公園や、鳥屋野潟では春になると周囲約8kmに咲き誇る桜で多くの人でにぎわう魅力を、いかに広く発信し活用していくかが課題となっています。
- 西海岸公園には、西船見町から関屋地区までの海岸沿い約5kmに渡って広がるクロマツ林が現存しており、まち歩きから少し足を伸ばして森林浴を楽しめる自然豊かな環境となっており、今後も着実な整備の推進を図る必要があります。
- 緑あふれ、潤いあるまちづくりを進めるため、区民一人ひとりの身近な生活空間の緑化を図る必要があります。

### 《まちづくりの方針》

#### <自然環境との共生>

- 防風・防砂対策のモデル地区として、市営汐見台住宅跡地の海岸林再生の取り組みを契機に他地区への展開を図り、新潟島の海岸林の必要性・重要性を広

く区民に周知していきます。

- 地域の活動団体や市民が協働で季節の草花を植え、来訪者が楽しめる空間づくりに取り組みます。
- 区民が水に親しみ、安らぐことができる憩いの場として、信濃川やすらぎ堤における水辺空間の整備を引き続き推進していきます。
- 「日本の都市公園 100 選」にも選ばれた白山公園や、春に周囲約8 kmに桜が咲き誇る鳥屋野潟など、中央区における自然の魅力をいかに発信し活用していくか検討します。
- 西海岸の約5 kmに渡って広がるクロマツ林があり、まち歩きから少し足を伸ばして森林浴が楽しめる西海岸公園について、緑豊かな環境整備の推進に努めます。

#### <居住空間の緑化推進>

- 区民一人ひとりに緑化意識を啓発し、緑あふれ、潤いある都市の環境及び景観づくりを推進します。

## 【未来につなぐ歴史・文化のまち】

### 1 歴史・文化

#### 《現状、特性と課題》

- 下町（しもまち）地域や沼垂地域など中央区には、湊町新潟を代表する様々な歴史的建造物や貴重な文化が数多く残されています。開港 5 港の一つとしての湊町新潟の歴史、文化の魅力を 2019 年の開港 150 周年を一つの節目として市内外へより発信していくとともに、小中学生に伝えるなど次世代へ語り継いでいくことが重要です。
- 中央区は、古町芸妓をはじめ古くから発展してきた湊町の歴史や料亭・発酵食などの食文化など多くの魅力を持っています。区民が誇りと愛着をもってまちに暮らし、多様な世代が地元の歴史や魅力について自信をもって語るができるよう、地域や学校で歴史や文化を学ぶ環境づくりが必要です。
- 中央区には、マンガやアニメに関する施設が数多くあるため、これらの施設や人材等の資源を広く活用し、マンガ・アニメ文化を市内外に広めていく取組みの充実が課題になっています。

#### 《まちづくりの方針》

##### <未来に向けた歴史・文化の継承>

- 若い世代に湊町新潟の歴史・文化を継承するため、学校における地域の歴史やまちなか探検などの授業をきっかけに、地域住民の協力を得ながらさらに理解を深め、子どもたち自らの歴史・文化となるよう努めます。
- 自分たちの暮らすまちに誇りを持つことができるよう、地域の歴史や文化にふれあい、学ぶことのできる機会の提供に努めます。
- 中央区において定着している「まち歩き」を関係団体と連携するなどさらに進化させ、地域の魅力の発掘及び区内外への発信に努めます。（再掲）
- 全国屈指の花街として、特に江戸時代後期から明治時代中頃まで繁栄を極めた古町。その花街を彩る古町芸妓や料亭文化を保護・育成するとともに、PRに努めます。
- 古町地区の「マンガの家」、万代地区の「マンガ・アニメ情報館」、「にいがたアニメ・マンガフェスティバル」などのイベントと連携して発信力を高めるなど、関連事業の内容の充実に努めます。（再掲）

## 2 産業

### 《現状、特性と課題》

- 地元産の安心安全でおいしい食材を活用した食品に関心が高まっており、農業者と消費者をつなぐ取組みが必要です。
- 中央区は、市内最大の食糧消費地であるため、名産品である女池菜をはじめ地場産農産物の認知度を高めることで消費拡大を図り、地産地消の一層の推進に努めるなど、農水産業の活性化を図る必要があります。
- 中央区は、北前船の寄港地として多くの地域と文化的交流が行われ、栄えてきました。中でも新潟漆器などは、今日、国の伝統工芸品に指定された伝統的な地場産業へと発展しましたが、引き続き支援・育成を図ることが課題となっています。
- 中央区では、古くから味噌や醤油、酒、こうじ、納豆など発酵食品の店や蔵・工場などが多く、こうした中央区の伝統的な加工食品を活用した食文化への取組みの充実が課題となっています。
- 江戸時代に創業し、現在も老舗料亭として格式を誇る「行形亭（いきなりや）」と「鍋茶屋（なべぢゃや）」は、いずれも国の有形文化財に登録されており、多くの芸妓衆が人々をもてなし、多くの料理人を育て、新潟の料亭文化を育ててきました。こうした新潟の由緒ある新潟芸妓と料亭文化を保護・育成していく必要があります。
- 中央区の主な商業地である古町地区・万代地区・新潟駅周辺地区は豊かな市民生活の実現や本市の経済をけん引する中核としての役割を担っていますが、歩行者数や小売販売額が減少していることから、活性化に向けた対策が必要です。

### 《まちづくりの方針》

#### <最大消費地を活かした地場産品の消費拡大>

- 区内における農産物の生産量は少ないものの、中央区は市内最大の消費地であるため、新潟市産農産物の周知を強化し消費拡大を図り、地産地消を推進することで農水産業の活性化に努めます。

#### <伝統産業の育成・支援>

- 新潟漆器や新潟仏壇をはじめとする伝統的工芸品産業の振興のため、伝統技術の継承や、後継者育成、商品開発などを支援するとともにPRに努めます。
- 中央区の食文化の特徴である発酵食品を、より住民の身近に感じてもらうよう努めるとともに、区内外に向けてPRしていきます。

- 全国屈指の花街として、特に江戸時代後期から明治時代中頃まで繁栄を極めた古町。その花街を彩る古町芸妓や料亭文化を保護・育成するとともに、PRに努めます。(再掲)

#### <魅力あふれる商業の振興>

- きめ細やかなサービスの提供、オンリーワン商品の開発・販売、新たな魅力ある店舗の誘致、歴史・文化を活用した取組み、イベントなど商店街の活性化に向けた取組みを支援することにより、魅力あふれる商業の振興に努めます。(再掲)

### 3 まちなみ

#### 《現状、特性と課題》

- 西大畑地区には、江戸時代から続く料亭「行形亭(いきなりや)」や明治期に建築された「北方文化博物館新潟分館」、大正期に建築された「旧齋藤家別邸」、大正から昭和初期に流行した洋館付住宅などが残っており、歴史的価値の高い建造物が建ち並ぶまちなみとなっています。このまちなみを構成する歴史的建造物の保全を図り、歴史的な佇(たたず)まいを活かした風情ある景観を創り出していく必要があります。
- 新潟を代表する繁華街の一つである「古町花街」地区の骨格を形成し、懐かしいまちなみの風情を今に留めている小道を、歴史的景観に配慮しながら、にぎわいあるまちづくりに向けて整備を進める必要があります。
- 古くから受け継がれてきた湊町新潟の風情と政令市新潟の高度な都市機能が融合したまちなみづくりを進める必要があります。

#### 《まちづくりの方針》

##### <景観に配慮したまちづくり>

- 「古町」「西大畑」の両地区は、湊町新潟の人の交流を象徴する固有の歴史・文化資産が残っておりその魅力や価値を高めながら後世に継承できるよう保全に取り組むとともに、楽しみながら回遊できる都市空間を創出します。(再掲)
- バリアフリー化を推進し安全な歩行空間を確保するとともに、都市景観及び都市防災機能の向上に努めます。(再掲)

# 区政運営の基盤

## 1 土地利用

### 《現状、特性と課題》

- 中央区は、市街化が進み、その多くが住宅用地、商業用地、道路・公共公益用地として土地利用され、町並みが形成されていることに特徴があります。土地利用については、こうした現状を踏まえ、鳥屋野潟南部の未利用地のほか、市街地に連たんしている施設のなかで生じた大規模跡地の（旧中央卸売市場、小学校及び中学校など）活用方法などを考慮しながら検討する必要があります。

### 《まちづくりの方針》

#### <行政資源の有効活用>

- 土地利用については、鳥屋野潟南部の拠点化を進めるほか、学校の統廃合などにより生じた大規模跡地の利活用など、その位置や地理的特性に配慮するとともに、地域ニーズも把握しながら、将来のまちづくりを見据えた検討を進めます。

## 2 公共施設

### 《現状、特性と課題》

- 施設の老朽化や少子高齢化をはじめとする人口構成の変化などを踏まえ、持続可能で効果的な行政サービスを提供していくためには、行政機能のさらなる効率化・適正化に加え、区民の利便性の向上などの観点が必要となります。
- 中央区には、人口減少が進んでいる地区がある一方で、大規模な宅地開発が進み、人口増が見込まれる地域もあります。今後、住民サービスをより効果的・効率的に提供していくためには、財産の効率化を図り区域全体での人口動態と公共施設配置のバランスに配慮する必要があります。

## 《まちづくりの方針》

### <行政機能のあり方の検討>

- 持続可能で効果的な行政サービスを提供するため、区民の利便性の向上や地域活動の場などを考慮しながら、行政サービス機能の効果的な集約・再編を検討し、環境が整ったものから実施します。
- 居住人口や交流人口をはじめとする人口動態に配慮するとともに、限られた資源のなかでの効果的・効率的な行政サービスの提供という観点から公共施設の適正配置に努めます。

## 3 行政サービス

### 《現状、特性と課題》

- 多くの人が利用する区役所として、親切・丁寧な対応を徹底することや、窓口の利便性を高めることで、市民満足度の向上を図る必要があります。
- 多くの外国人が暮らし、訪れるまちとして、多様な文化をもつ人々が行き交い、共に生きる多文化共生のまちづくりを進める必要があります。
- 社会情勢の変化に伴い、多様で広範な行政情報を区民へ迅速、的確に伝えていくため、情報発信の手段を工夫していく必要があります。

## 《まちづくりの方針》

### <質の高い行政サービスの提供>

- 区役所を訪れた人にとって、わかりやすいレイアウトの導入や、なるべく一つの窓口で多くの手続きができるような仕組みづくりなど、窓口改善運動を継続していきます。
- 多文化共生のまちづくりを目的に、外国人に向けた情報発信や、公共施設サインの外国語表記などの充実を図ります。
- 障がい者・高齢者への配慮やICTの活用など、社会環境の変化や情報通信技術の進展に対応した多様な広報手段により、誰もが入手しやすい情報発信に努めます。